

兵高教組

2025年4月28日

# 調査情報 5号

兵庫県高等学校教職員組合調査部  
TEL: 078-341-6745 FAX: 078-351-3185  
URL: <http://www.hyogo-kokyoso.com>  
mail: honbu@hyogo-kokyoso.com

## 「教師やっててよかつたなと思える施策を」高教組委員長



「従来の労使慣行を尊重するとともに  
相互の信頼関係を大切に」教育長回答  
2025年度教育長交渉

4月24日、ひょうご女性交流会館にて兵庫県高等学校教職員組合、兵庫県高等学校従業員組合と兵庫県教育長と勤務条件等の基本要求交渉をもちました。双方で従来の労使慣行を尊重するとともに、相互の信頼関係を大切にしながら、今後ともすすめていくことが確認されました。以下、発言要旨です。

### 「従来の労使慣行を尊重」藤原教育長

- ・阪神淡路大震災から30年目。経験と教訓(命、助け合い、絆の大切さ)を共有し、次の子どもたちに伝えていく。
- ・第4期教育創造プランの更なる推進
- ・働き方改革ではICT、外部人材の活用も図りながら、総業務量の削減に。
- ・教職員が専門性を高め指導力を發揮して頂く為、心身の健康、働きがいのある職場のさらなる充実にとりくむ。

・「従来の労使慣行を尊重いたしますと共に、相互の信頼関係を大切にし、これまでと同様、お互いの理解を深めながら、誠意を持って丁寧に対処して参りたい」

### 「教師やっててよかつたなと思える ような施策を」藤本高教組委員長挨拶

教職員を希望する若者が減っている。心の病を抱えての休職が各種統計で過

去最大。不登校で学ぶ機会を減じられている、阻まれている子どもたちが過去最大。この件、何か繋がってる。

教職員が活き活きできる、心、胸が弾むようなことがあってストレスが減り、活き活きと学校活動、教育活動ができる、そのことは子どもたちに希望や夢や勇気を与える、そういう仕事を私たちが広告塔となり見せることができれば、教職員になる若者は減らない。

現場にいる私たちに本当に胸躍る活き活きできる、こんな施策やってくれるんだったら、ちょっと頑張ってみようかと、教師やっててよかつたなと思えるような施策を示していただきたい。



「待遇改善で兵庫の教育を守って」  
「中高齢層の賃上げ」福田高従組委員長

学校現場は待遇面等で人気が低迷し、人材確保が非常に難しい状況。賃金アップ等で民間に人気が集中。我々組合と一緒に、人材確保で兵庫の教育を守っていただきたい

定年が段階的に65歳迄延長され、学校現場は、中高齢層の活躍で支えられている。その活躍に見合う提案を。

### 「教職員定数を増やし1クラス20名に」 「常勤に2級適用」 谷書記長要求

給特法の改正案で、「定額働かせ放題」の解消のために、石破首相は、教育委員会や校長に、制度的提案も予算措置もなく時短目標を立てよと言っているが、校長が「早く帰れ」というだけでは時短ハラスメントになるだけ。超勤務縮減には、教職員基礎定数増で1クラ

ス定員を20名にまで段階的にすすめる事ではないか。(教室不足解消の為)一旦高校統廃合は止めてほしい。

教員不足を補う臨時教職員は、正規教職員(2級)の仕事を代替。2級の仕事には2級の賃金支払いを求める。

### 「調理員、実習員の採用試験を」 「病休の扱いを元に」土居高従組書記長

調理員、実習員に深刻な人員不足、早急な解消(採用試験の再開)を。

教員以外の職員の精神疾患による病気休暇の対象期間180日を元に戻す。同じ敷地内で働いている職員で差があるというのはおかしい。

### 「ICT機器導入が多忙化に拍車」 「特別支援学校大規模化の解消を」

中西障教組委員長要求

ICT機器(公務支援システム、会計システム)導入が、新たな業務を生み出して多忙化に拍車。

仲間が病気休養、退職せざるを得ない事実や未配置で新学期を迎えた学校が少なくない。教職員定数の抜本的な改善を、強く国に求めてほしい。

支援学校のニーズが高まっているが、大規模化解消がない。インクルーシブな社会づくりに向けて、を根本的に教育全体を改革するためとりくんでいただきたい。

### 「1つの教室を仕切って 2クラスの授業をしているところも…」

